

Development of Skill Scale for Patients with Type 2 Diabetes Mellitus to Build Relationships with Medical Staff and assessment of reliability and validity

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056975

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 31 年 2 月 14 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1229022011

氏名 藤田 結香里

論文審査員

主査（職名） 須釜 淳子（教授） 

副査（職名） 津田 朗子（教授） 

副査（職名） 稲垣美智子（教授） 

論文題名 Development of Skill Scale for Patients with Type 2 Diabetes Mellitus to Build Relationships with Medical Staff and assessment of reliability and validity

(2型糖尿病患者における医療者との関係構築スキル尺度の開発および信頼性と妥当性の評価)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

2型糖尿病患者が治療継続することは重症化予防において必須であり、治療継続には医療者だけではなく患者自身も医療者との関係を構築するスキルが必要である。本研究は関係構築スキル尺度を開発することを目的とした。尺度開発の構成概念としてゴールドスティンの社会的スキル尺度を用いた。尺度原案は、社会的の5つの概念から構想、先行研究（博士前期課程）を基に作成し、項目精選と表面妥当性の検証を経て最終的に56項目となった。並存妥当性の検討には「Kikuchi's Scale of Social Skills:18items (KISS-18)」を用いた。

対象者は1県内の2型糖尿病患者とし、調査票回収数284、有効回答数262を対象とした。尺度開発の手順に基づき、項目分析では、天井効果・フロア効果の検討を行い、G-P分析、I-T相関を確認した。構成概念妥当性は探索的因子分析、併存妥当性の検討（相関係数）、内容的妥当性（CVIの算出）を行った。信頼性の検討は尺度全体及び下位尺度のCronbach's α 係数を算出した。結果、4因子36項目（第1因子18項目「問題解決スキル」、第2因子7項目「対処スキル」、第3因子7項目「コミュニケーションスキル」、第4因子4項目「感情自覚スキル」）となった。KISS-18との相関係数は0.590、CVIは0.80-1.0、全項目のCronbach's α 係数は0.791-0.960であった。また中断経験者の総得点が未中断者より有意に低く、既知集団妥当性が確認された。

【審査結果の要旨】

本研究は、2型糖尿病患者自身が医療者との関係を構築するスキルを持つことの必要性に着眼し、具体的なスキルを示す尺度を作成した。本尺度は、従来の糖尿病療養指導内容に新たな内容として導入する、糖尿病医療で常に問題である治療中断への活用など糖尿病治療に大きく貢献するものである。公開審査では、開発過程のプロセス、今後の糖尿病の臨床における尺度の有用性に対する質疑応答に十分に応答していた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。